

聖書神学の方法と課題

方法

通時的考察法(diachron)

共時的考察法(synchron)

具体的に:キーワード検索

課題

聖書の知恵の発見

聖書神学の歴史

- (1) Luther 1519: sola scripturaが出发点。
- (2) Orthodoxie から Pietismus へ。
17世紀: theologia biblica が登場。
しかし、Theologia schola (スコラ哲学に基づいた神学=教義学)に従属した聖書神学にとどまる。
18世紀: Heilsoekonomie (oeconomia temporum)への関心。
theologia schola と対決。Pietismus: 聖書に即した神学(規範的な聖書神学)へ。
- (3) Pietismusから啓蒙主義(Aufklärung):
18世紀後半: 歴史学と結合 (Johann Philipp Gabler)
聖書の中に含まれている神学。歴史的・批判的聖書学の登場による聖書神学の瓦解。
- (4) 19世紀の初めから旧約神学と新約神学に分離。神学思想史。自由主義神学
- (5) 20世紀前半: 自由主義神学から弁証法神学へ。神の言葉。歴史的啓示
- (6) 20世紀後半: 非神話化=実存の神学。歴史(伝承史)の神学。知恵の神学。物語の神学。
- (7) 最近の状況: 「聖書神学」再構築の要請。聖書の中の啓示に関する多様な証言の相互関連を明らかにする。